

専門試験（保健師）

〔例題1〕 COPD に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. COPD は慢性気管支炎や気管支喘息、肺気腫の総称で、有害物質を長期に吸入曝露することで生じた肺の炎症性疾患である。
2. COPD の特徴的な症状は、歩行時や階段昇降時に息切れを感じる労作時呼吸困難や慢性の咳や痰である。
3. 肺胞が破壊されて、肺気腫という状態になると、肺が膨らもうとする力が減少して、息を吐くのは容易だが息を吸うことが困難になり、酸素の取り込み機能が低下する。
4. 肺機能検査（スパイロメトリー）で、「1 秒率」が50 %あれば、COPD の可能性は低い。
5. 喫煙者における COPD の発症率はおおよそ50 %である。COPD 患者が禁煙すると、「1 秒量」が改善する。

正答 2

[例題2] 人口動態の指標に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 出生率（粗出生率）は，1年間の出生数をその年の10月1日の総人口で割ったもので，人口10万対で表されるのが一般的である。
2. 合計特殊出生率は，15～49歳の女性の年齢別出生率の総和で，1人の女性が一生の間に生む子どもの数を表す指標として用いられる。
3. 総再生産率は，1人の女性が，出産時の年齢にかかわらず一生の間に生む子どもの数で，合計特殊出生率よりも大きな値となる。
4. 純再生産率は，人口が翌年に増加するか減少するかが分かる指標である。純再生産率が，ある年に1未満になると，その翌年に人口が減少する。
5. 新生児死亡率は，1年間の出生数に対する，生後1週未満の死亡数の割合であり，乳児死亡率よりも小さな値となる。

正答 2